



# 学園だより

地方競馬益金事業  
No.13  
1981年3月31日発行  
財団法人  
中国四国酪農大学校  
電話 086766-3651

搾乳に向うジャージーの群

## 今こそ伝統の

## 校風を生かそう

副校長 服部 剛

卒業生の皆さん、お元気で、ご活躍でしょうか。懸念に頑張っています。

一年一回発行されるこの『学園だより』が、母校の様子をお伝えする唯一の機会であり、まずはお赦し載せたいと思います。

昨年、日本の経済全体にも影響を与えるような、長雨冷夏の異常気象の年でありました。今年の冬の寒さは、ことの外また厳しくこの蒜山の地も、過去幾年か雪が少いと聞かされていましたが、暮れの十二月十三日に降った新雪はそのまま根雪として残り、里には春の音が聞かれるというこの頃になりました。蒜山三座はもとより麓の放牧場一帯は、

〇、五ノ一mの銀世界で、学園の象徴として懐かしく想い出されるでしょう。ポプラ並木の木立がひとしお高く感じられる風景を呈しているのが、今日(三月十日)この頃です。

ちょうど校内では、三十八名の十五期生が家畜人工授精師の免許試験を終え、学園生活最後の総仕上げに

卒業生の皆さん、お元気で、ご活躍でしょうか。懸念に頑張っています。後二旬で巣立つ後輩諸君に先輩卒業生の皆さんの暖かい、ご指導とご援助を願って止みません。

また、昭和五十四年から始まりました生乳の計画生産等の酪農を取りまく環境の厳しさが原因となったのか、本校開校以来という大巾な減少を見ました。二十一名の十六期生は、現在、校外の中核先進酪農家へ十ヶ月間の実務研修に出て、将来理想とする我が地域、我が家の酪農経営を夢見て勉強を続けています。

なお、私共が最も危惧していましたが、今春の入学志願者は三十七名に達し、本校建学の柱であります酪農後継者の養成目的に向って、更に前進することが出来ることになりました。

このことは、ひとえに実践的技術の修得を基本に協調と連帯感を以て、どこまでもやり抜く根性を養成する本校の校風を身につけられた卒業生の皆さんが、それぞれの地域で力強

く活躍されておられる実績と、またこのような輝やかしい校風と礎かれた学校関係先輩諸氏の賜であると、深い敬意と感謝の言葉を捧げるものです。

私共が、今更ら申し上げるまでもなく、現在の酪農環境は余りにも厳しい時代を迎えています。このような時こそ、卒業生、大学校、そして更には一般酪農家の方々も自らの経営技術を再点検し、協調と連帯意識を更に高めて、これからの酪農に立ち向わねばならないのではないのでしょうか。

本校では、仲間との連帯を一層深

### 目次

|               |    |
|---------------|----|
| 今こそ伝統の校風を生かそう | 1  |
| 副校長 服部 剛      | 1  |
| 学校の近況         | 2  |
| 教育部長 植木富士男    | 2  |
| 牧場の現況         | 3  |
| 第一牧場だより       | 3  |
| 第二牧場だより       | 4  |
| 卒業生からの便り      | 4  |
| 酪農一年生 第十四期卒業生 | 6  |
| 豊岡 秀雄         | 6  |
| 岡山県ブラジル農業実習に  | 7  |
| 参加して 第十五期卒業生  | 7  |
| 石原 保博         | 7  |
| 酪大日誌から        | 9  |
| 人の動き          | 10 |
| 酪農大学校旧職員名簿    | 10 |
| 卒業生名簿         | 13 |
| 編集後記          | 24 |

め、新技術を追求修得する場として、会の全面的な助成事業により完成を本年度校内女子寮の東南の場所に、みたわけで、この場をお借りして関係農後継者養成施設を整備すること係機関に深くお礼申し上げると共に、が出来ました。この建物は、白亜の其の目的を果せるよう効率的な運営二階建てで、その延べ面積は五八三を図り、関係皆様のご期待に副いた㎡総工事費は九、八〇〇万円を要し、いと考えています。

た立派な施設です、この建設につき最後に卒業生の皆さんのなお一層ましては、岡山県、地方競馬全国協の御健康と御活躍をお祈りします。

# 学校の近況

教育部長 植木 富士男

中国四国酪農大学校も第十五期の望にみちた研修生活を送っております。卒業生を送り出す日を目前に職員・す。第十七期生三十六名の入学の時学生が各々の立場において一生懸命に頑張っております。

卒業生の方々と関係者の皆様には、お元気に御活躍のこととお喜び申し上げます。

今冬は厳しい寒波と豪雪に見舞れ、学舎・牛舎そして牧場は勿論のこと、蒜山地方は一面の白布に覆われた日が続き春の訪れを鶴首しております。皆様の地方はいかがでしょうか。

現在学生は第十五期生三十九名が後期在学中・第十六期生二十二名が校外研修を行っており将来有望な酪農後継者となるべく毎日楽しく希

表 牧場飼養頭数

| 牧場別  | 品 種    | 成 牛 |     |      |     | 育 成 牛   |       |     | 合 計 |
|------|--------|-----|-----|------|-----|---------|-------|-----|-----|
|      |        | 搾乳牛 | 乾乳牛 | 未經産牛 | 小計  | 12~18月か | 12カ月未 | 小 計 |     |
| 第1牧場 | ホルスタイン | 31  | 5   | 4    | 40  | 4       | 14    | 18  | 58  |
|      | 肥 育 牛  |     |     |      |     | 4       | 74    | 78  | 78  |
| 第2牧場 | ジャジー   | 78  | 26  | 10   | 114 | 13      | 24    | 37  | 151 |
|      | 肥 育 牛  |     | 3   |      | 3   | 36      |       | 36  | 39  |
| 合 計  |        | 109 | 34  | 14   | 157 | 57      | 112   | 169 | 326 |

(56.3.1現在)

二牧場の旧学生寮を肥育牛舎に改築又第二牧場に三〇〇㎡のスラリーストアーを併設いたしました。

更らに本年度は女子寮の東側付近に卒業生の方等再研修を要望される声に答えるため酪農後継者養成施設が地方競馬全国協会並びに岡山県の御援助により昭和五十六年一月初旬に竣工し皆様方のより良い研修の場としてお待ちしております。

さて、最近の酪農状態を見るとき生乳の計画生産・飼料費等関係物価の値上げに悩まされておりましたが、それに加え今年一月から乳価が値下げされる等々我々酪農を取り囲く環境は益々逼迫して参りますが本校といたしましては牧草地や飼料畑の高度利用を図り粗飼料の増産によるコストダウンにより経営の合理化に努めたいと思っております。

卒業生の皆様も水田利用再編対策の利用、草地や水田裏作の高度利用等により自給飼料の増産につとめられ経済性の高い乳用牛の飼育によって更らに経営を安定され地域のモデルとしてリーダーシップをとられるよう切望し併せて今後とも学生の校外研修の場としての受け入れに格別の御協力をお願いいたします。

昭和五十五年度第二回岡山県家畜人工授精(牛)講習会が二月に開催され近日試験が実施されますので学生諸君は只今一生懸命その仕上げに励んでおり全員合格してもらいたいと念じております。

大と酪農」は車の両輪の如く密接不可分であり岡山県は言うに及ばず構成県内外から多数の入学希望者が殺到し酪大は今や時代の担い手育成の輻輳の地として今後ますます発展するものと期待しており、関係者の一人として誠に嬉しく思っております。

牧場別乳用牛並びに肥育牛飼養頭数は表のとおりであります。

昭和五十三年度に緊急粗飼料増産生産促進事業により第一牧場及び第二



新設なった酪農後継者養成施設

# 牧場の現況

## 第一牧場だより

卒業生の方々が来校され地方の出来事や自営の状況を語ってください。又は海外研修の珍しいニュースやレポートを送付していただき本当に有難く思っております。

又昨年度より岡山県出身の学生については岡山県より巡伯農業研修の機会を与えて頂き昨年は二名が参加

し広い見識を得て帰校いたしました。が、今年是一名が現在参加研修中です。

学校内を貫らぬいている村道もこの春には舗装され埃のないきれいな学舎となることでしょう。

皆様の御健康と御発展を祈りつつ筆を擱きます。

卒業生の皆さん、お元気ですか。今年、十二月十五日頃から雪は降り始め、この二、三年は、雪の多い正月でしたが、この雪が根雪となり、昭和三十六年以來の大雪となりました。多い場所では、メートル五〇センチも積もり、屋根の雪おろしをしました。しかし、三月に入ってから気温上昇で雪解けが始まり、今（三月十五日）やっと草地の一部に見えだしました。

され、教務課の協力を得て頑張っています。乳牛の状況

さて、第一牧場の現況ですが、職員は、昭和五十五年四月の移動で、光畑場長、大内先生は転勤され、学校創立以来勤めておられた常守先生は退職され、教務課から黒瀬先生、新しく樋口先生、それに上原が配置

昭和五十六年三月一日現在、第一牧場で飼養しています乳牛は、表一で示しているように、ホルスタイン種成牛三十六頭、育成牛二十二頭、肥育素牛七十八頭（ホルスタイン種雄子牛五十八頭、ジャージー種雄子牛二〇頭）を飼養しています。

年令別では、表二に示すように、昭和四十五年生まれの牛が最古産ですが、全体に若くなり、今年、子宮内膜炎、肢脚、その他の故障で四頭を淘汰しています。

産次別では、表三に示すような状況

で、平均三・三産で、三産以下が五五・六%と半分以上を占めています。

生乳生産状況 月別の生乳生産状況は、表四に示すように、

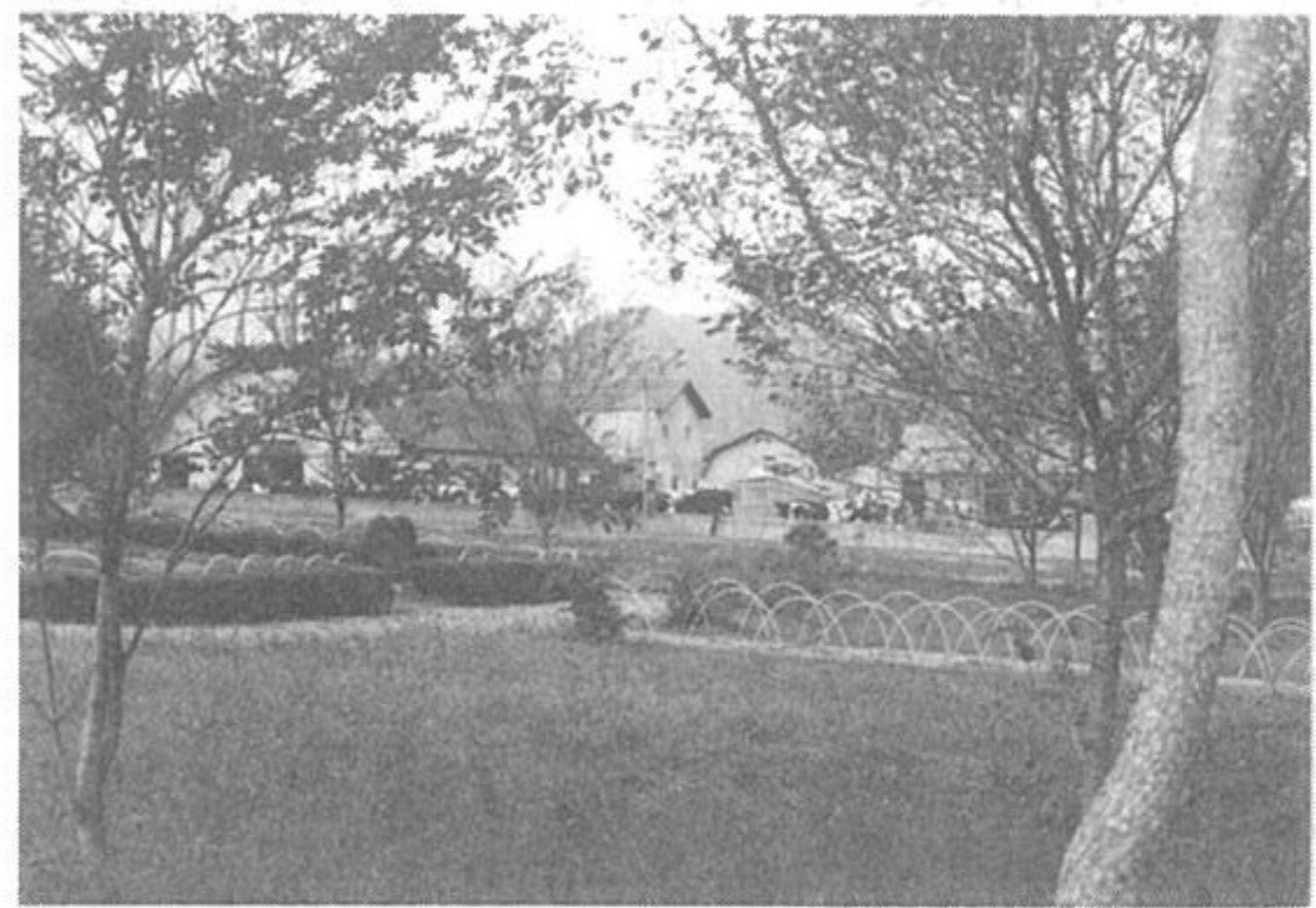
前年度対比で見ると、総乳量は、六〜九月までの四カ月間は、増加していましたが、その以降減少しています。

その原因としては、種付の関係、粗飼料不足が関係していると思われる。しかし、疾病の関係は大きな事故もなく、乳房炎の発生も少なかったように思われます。

### 自給飼料の生産状況

本年度当初は、根雪もなく、牧草の萌芽も良かったのですが、気温が上昇しなかったため発育が遅れました。しかし、放牧、青刈は少し遅れましたが、平年通り実施することができました。圃場作業については、

長雨のため、天候の良い日に、集中



第1牧場搾乳牛舎

十一月四日まで利用しました。本年度は、例年になく異常気象のため発育が悪く、生産量、利用日数も少なくなっています。

昭和五十四年度計画していましたルーサン混播草地を〇・六ha造成しました。

### 埋草利用について

例年どおり飼料畑を二毛作利用し、イタリアンライグラス二・三ha、トウモロコシ五・五ha作付しましたが、

表1. 乳牛の飼養状況

(56.3.1現在)

| 区分 | 成 牛 |     |     |    | 育 成 牛    |            |     | 合 計 |
|----|-----|-----|-----|----|----------|------------|-----|-----|
|    | 搾乳牛 | 乾乳牛 | 未産牛 | 小計 | 12~18カ月令 | 12カ月未満     | 小 計 |     |
| 雌  | 31  | 5   | 4   | 40 | 4        | 14         | 18  | 58  |
| 雄  |     |     |     |    | ⊕ 4      | ⊙ 54<br>20 | 78  | 78  |
| 計  | 31  | 5   | 4   | 40 | 8        | 88         | 96  | 136 |

表 2. ホルスタイン種 (雌) の年令別構成

(56. 3. 1現在)

| 出生年次 | 45  | 47  | 48  | 49  | 50   | 51   | 52   | 53   | 54   | 55   | 56  | 計   |
|------|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|-----|-----|
| 頭数   | 1   | 2   | 4   | 5   | 6    | 6    | 6    | 6    | 7    | 10   | 5   | 58  |
| 比率   | 1.7 | 3.4 | 6.6 | 8.6 | 10.3 | 10.3 | 10.3 | 10.3 | 12.1 | 17.2 | 8.6 | 100 |

表 3. ホルスタイン種の産次別構成

(56. 3. 1現在)

| 産次 | 1    | 2    | 3    | 4    | 5   | 6   | 7   | 計   |
|----|------|------|------|------|-----|-----|-----|-----|
| 頭数 | 7    | 6    | 7    | 8    | 3   | 2   | 3   | 36  |
| 比率 | 19.4 | 16.7 | 19.4 | 22.2 | 8.3 | 5.6 | 8.3 | 100 |

表 4. 月別生乳生産状況

|           |      | 4      | 5      | 6      | 7      | 8      | 9      | 10     | 11     | 12     | 1      | 2      | 3      | 計       |
|-----------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 総乳量       | 54年度 | 17,326 | 16,831 | 13,457 | 14,045 | 12,388 | 11,527 | 13,652 | 14,050 | 16,527 | 14,611 | 13,891 | 15,751 | 174,041 |
|           | 55年度 | 15,203 | 15,949 | 13,710 | 13,846 | 14,360 | 13,436 | 11,823 | 12,318 | 12,353 | 11,545 | 11,591 |        |         |
|           | 前年比  | 88     | 95     | 102    | 99     | 116    | 117    | 87     | 88     | 75     | 79     | 83     |        |         |
| 一り月平均頭乳当量 | 54年度 | 18.6   | 18.6   | 15.8   | 15.0   | 13.8   | 15.6   | 17.1   | 16.7   | 17.7   | 16.5   | 16.6   | 15.8   | 16.5    |
|           | 55年度 | 15.7   | 18.4   | 15.5   | 14.5   | 14.8   | 14.5   | 14.6   | 15.2   | 15.3   | 14.9   | 15.6   |        |         |
|           | 前年比  | 84     | 99     | 98     | 97     | 107    | 93     | 85     | 91     | 86     | 90     | 94     |        |         |

# 第二牧場だより

この異常気象により、トウモロコシは発育が悪く、経過日数は例年どおり経過していても湖熟期にならず、埋草適期に詰め込むことができませんでした。詰め込み量も、例年の約四〇%減で、不足分は、湯舟地区の野草を刈らしてもらい、バンカーサイロ、大小の気密サイロに、計五〇t貯蔵しました。

また、野草のサイレージは、来年度も肥育用として利用していきたい

また、例年、この地方は、製品の品質が悪いのですが、今年度は、特に降雨が多かったため品質は例年よりも悪くなっています。

本年度の自給飼料の総生産量は、

卒業生の皆さん、お元気ですか。今年度の森山地方は、近年まれにみる大雪のため、三月現在でも、山や草地はもちろん、牛舎の屋根まで、一面雪に覆われ、毎日寒い日が続いております。

さて、第二牧場の現況ですが、まず、ジャージー種の飼養状況からお知らせします。

一、ジャージー種の飼養状況

現在、第二牧場で飼養しているジャージー種は、表1で示しているように、昭和五十六年三月一日現在で、成牛一七頭、育成牛三七頭、肥育牛三三頭(ホルスタイン種を含む)

一、ジャージー種の飼養状況

生まれの、一〇才以上の牛が少なくなり、昭和五十年以降生れの、五才未満の牛がかなり多くなっておりまして、

二、生乳の生産状況

本年度は、異常気象による長雨、冷夏のため、サイレージ、乾草等の貯蔵飼料の調製に困難をきたし、粗

例年に比べて四〇%減でした。

以上第一牧場の近況についてお知らせします。最後に、計画生産、飼料の値上げ等、社会情勢の厳しい折ですが、卒業生の皆さんも身体に気をつけ一層のご活躍をお祈りいたします。

(第一牧場 上原記)

飼料の質、量とともに不足したため、生乳生産にも大きな影響を及ぼしました。

月別の生乳生産状況は、表2のように前年対比で見ると、四月から九月までは、期待どりの乳量を得ることができましたが、十月以降は、減少傾向を示しており、一日一頭当りの乳量についても、可成り低率となっております。

三、自給飼料の生産状況

第二牧場の草地は、図1に示すように、一牧区から一七牧区に区分され、総面積六四、六ヘクタールであり、この草地の昭和五十五年度の利





第2牧場ポプラ並木

おりましたが、本年度は異常気象のため、飼料作物の成育が悪く、そのうえ、長雨のため栽培や収穫作業にも大きな支障をきたし、サイレージャや乾草の収量の減少はもちろんです、その品質においても、不良のものが多いため、第二

しており、その飼養状況は、表5に示しているように、十カ月令から十カ月令のホルスタイン種一四頭、ジャージー種一五頭の計二九頭の肥育仕上を現在行なっております。これら肥育牛の目標体重は、一八カ月令でホルスタイン種五百五十キログラム、ジャージー種三百五十キログラムとしております。

この肥育牛の給与飼料（肥育仕上）は、粗飼料では主に稲ワラと乾草、濃厚飼料は、肥育用配合飼料と圧ペンを表を利用しております。以上第二牧場の近況についてお知らせしましたが、今後更に牧場の発展と充実のため、場員一同ますます頑張っていくつもりでありますので、機会がありましたらご来場下さい。

最後に卒業生の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈りいたします。  
(第二牧場 小福田記)

用状況を、表4に示しております。採草主体草地は三二、一ヘクタールで、一番草は主としてサイレージ利用に仕向け、二番草は主として乾草利用とし、三番草は放牧利用にしました。放牧利用主体の草地は三二、三ヘクタールで、一部の草地を除いて、一番草から三番草まで全て放牧に利用しました。これらの、生草生産目標は、混播牧草地で十アール当り約四千キログラム、トウモロコシは、五千キログラム、年内刈イタリアンライグラスは、三千キログラムとして

牧場では、原野の野草や、生稲ワラを、気密キイロヤバンカーサイロに詰込み、サイレージとして、現在利用しております。四、肥育の現況 牛肉需要の増大に対処し、安価な牛肉を安定的に確保するとともに、畜産複合経営の教育と、高冷地における肉用牛肥育の実証を行なうため、国の助成を受けて、昭和五十四年度から始まった、低コスト肥育牛生産促進事業も、今年は二年目でありますが、第二牧場では、旧三木ヶ原寮を改造した牛舎で、肥育の仕上げを

表1. ジャージ種の飼養状況

(56. 3. 1現在)

| 区 分 | 成 牛 |     |       |     | 育 成 牛        |         |         |     | 合 計 |
|-----|-----|-----|-------|-----|--------------|---------|---------|-----|-----|
|     | 搾乳牛 | 乾乳牛 | 未産 経牛 | 小 計 | 12~18カ月令     | 6~12カ月令 | 12カ月令未満 | 小 計 |     |
| 雌   | 78  | 29  | 10    | 117 | 13           | 12      | 12      | 37  | 154 |
| 雄   |     |     |       |     | ⊙ 15<br>⊕ 14 |         | ⊙ 4     | 33  | 33  |
| 計   | 78  | 29  | 10    | 117 | 42           | 12      | 16      | 70  | 187 |

(注、雄は肥育牛で⊙はジャージー種、⊕はホルスタイン種)

表2. ジャージ種（成牛）の年令別構成

(56. 3. 1現在)

| 出生年次 | 41  | 42 | 43  | 44  | 45  | 46  | 47  | 48  | 49  | 50   | 51   | 52   | 53   | 54  | 合 計 |
|------|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|-----|-----|
| 頭 数  | 1   | 0  | 1   | 1   | 2   | 7   | 8   | 11  | 9   | 14   | 16   | 23   | 16   | 8   | 117 |
| 比 率  | 0.9 | 0  | 0.9 | 0.9 | 1.7 | 6.0 | 6.8 | 9.4 | 7.7 | 12.0 | 13.6 | 19.6 | 13.7 | 6.8 | 100 |

表3. 月別生乳生産状況

| 区 分      | 4    | 5      | 6      | 7      | 8      | 9      | 10     | 11     | 12     | 1      | 2      | 3      | 合 計     |
|----------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 総 乳 量    | 54年度 | 24,468 | 26,979 | 23,129 | 26,295 | 27,439 | 26,759 | 27,205 | 25,704 | 26,281 | 25,126 | 22,621 | 288,889 |
|          | 55年度 | 24,569 | 29,816 | 27,482 | 26,706 | 28,990 | 29,422 | 24,980 | 23,982 | 23,654 | 23,165 | 17,296 |         |
|          | 前年比  | 100    | 111    | 119    | 102    | 106    | 110    | 92     | 93     | 90     | 92     | 76     |         |
| 一平頭均当乳り量 | 54年度 | 10.4   | 12.0   | 11.5   | 11.5   | 11.7   | 11.2   | 11.0   | 10.7   | 10.4   | 9.6    | 9.0    | 10.8    |
|          | 55年度 | 9.9    | 11.2   | 11.3   | 10.6   | 10.8   | 10.8   | 10.1   | 9.7    | 9.5    | 9.3    | 8.2    |         |
|          | 前年比  | 95     | 93     | 98     | 92     | 92     | 96     | 92     | 91     | 91     | 97     | 91     |         |

表 4. 草地利用状況

| 牧 区    | 面 積 <sup>ha</sup> | 利 用 状 況 |        |       |
|--------|-------------------|---------|--------|-------|
|        |                   | 1 番 草   | 2 番 草  | 3 番 草 |
| 1      | 3.0               | サイレージ   | サイレージ  | 青刈    |
| 2      | 2.0               | "       | "      | "     |
| 3      | 2.7               | "       | "      | "     |
| 4      | 1.1               | 放 牧     | 放 牧    | 放 牧   |
| 5 (1)  | 2.0               | "       | "      | "     |
| 5 (2)  | 2.0               | "       | "      | "     |
| 6 (1)  | 0.7               | "       | 乾 草    | "     |
| 6 (2)  | 5.0               | トウモロコシ  | トウモロコシ | 更 新   |
| 6 (3)  | 2.6               | 放 牧     | 放 牧    | 放 牧   |
| 7 (1)  | 3.0               | サイレージ   | 乾 草    | "     |
| 7 (2)  | 3.2               | "       | "      | "     |
| 8 (1)  | 2.8               | 放 牧     | 放 牧    | "     |
| 8 (2)  | 3.0               | "       | "      | "     |
| 9 (1)  | 3.0               | サイレージ   | "      | "     |
| 9 (2)  | 1.0               | 放 牧     | "      | "     |
| 9 (3)  | 3.3               | "       | "      | "     |
| 11 (1) | 0.3               | "       | "      | "     |
| 11 (2) | 2.0               | "       | "      | "     |
| 12     | 2.5               | "       | "      | "     |
| 13     | 4.2               | 乾 草     | 乾 草    | 乾 草   |
| 14 (1) | 3.0               | 放 牧     | 放 牧    | 放 牧   |
| 14 (2) | 1.0               | "       | "      | "     |
| 15 (1) | 1.0               | トウモロコシ  | トウモロコシ | 更 新   |
| 15 (2) | 1.0               | "       | "      | "     |
| 16 (1) | 2.2               | 放 牧     | 放 牧    | 放 牧   |
| 16 (2) | 2.3               | サイレージ   | "      | "     |
| 17     | 4.7               | "       | 乾 草    | "     |
| 計      | 64.6              |         |        |       |

図 1. 第二牧場草地略図

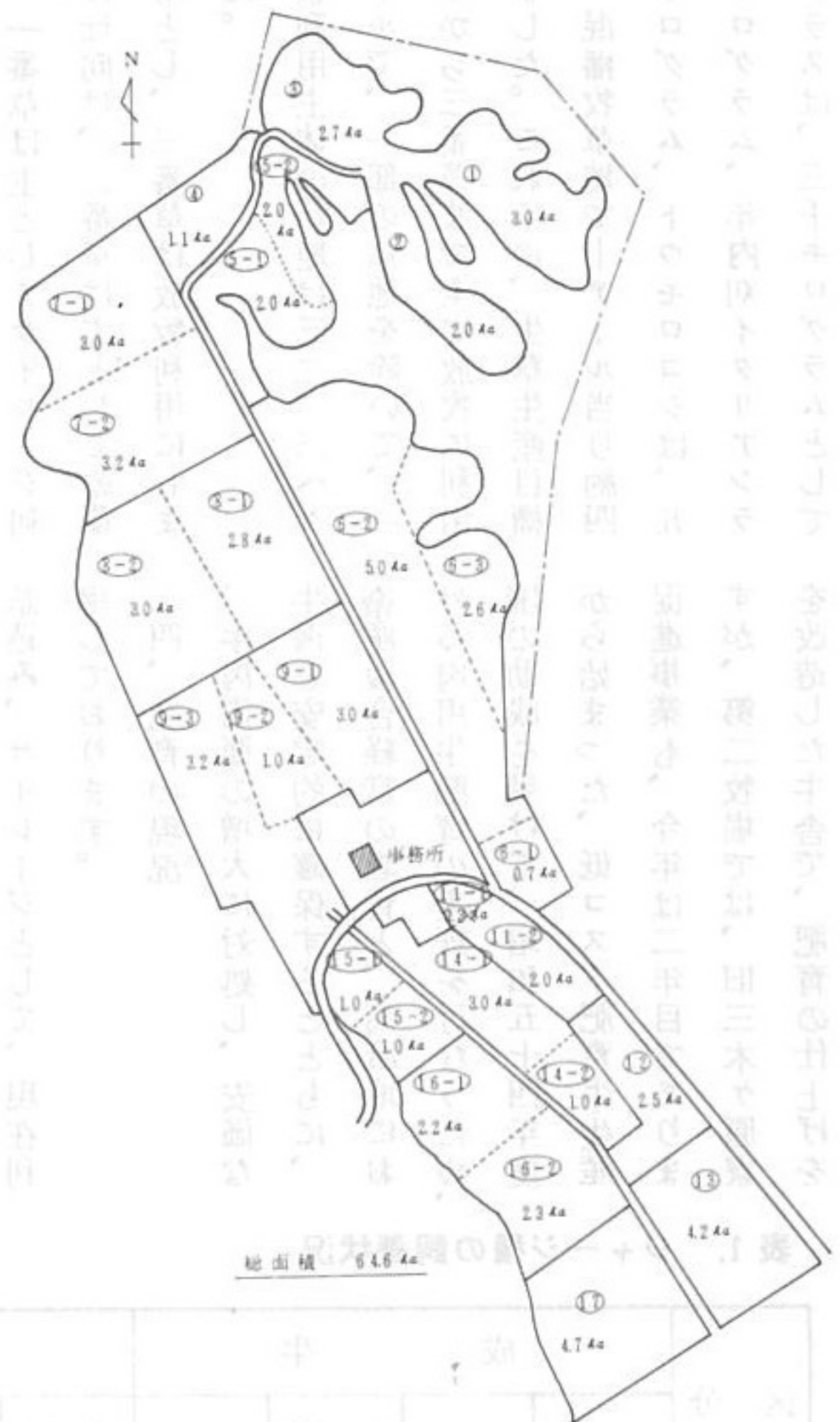


表 5. 肥育牛の飼養状況

(56. 3. 1現在)

| 区 分     | 月 令 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 合 計 |
|---------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| ホルスタイン種 |     | 0  | 0  | 0  | 1  | 3  | 4  | 5  | 1  | 0  | 0  | 14  |
| ジャージー種  |     | 1  | 0  | 3  | 0  | 0  | 2  | 1  | 2  | 3  | 3  | 15  |
| 計       |     | 1  | 0  | 3  | 1  | 3  | 6  | 6  | 3  | 3  | 3  | 29  |

私の住む地域は、畜産、野菜、その他数多くの一産業から構成されている農業地帯です。山林原野は、国営パイロット事業で畑地へと開発

昭和五五年三月、本校卒業後直ちに自宅の家業の酪農を中心とした複合経営に取り組み早一年、学生生活から一転して夢と希望を胸に将来の計画を作り経営の合理化、生活基盤の確立を柱に両親と共に経営し、卒業後半年で酪農経営全般を私が後継者としてゆずり受け経営しています。酪農歴のない私にとって今日の様な農業情熱又は異常気象の影響で自給飼料の減収を酪農全般を引受けた私にとっては最初の壁に当面し経営の見通しにさえ不安を覚えました。しかし自分の手で経営を持続向上させていかなければならない責務のある私にとって本校での経験と知識又地域社会から得る情報を自分の手で経営に取り入れる機会が多く有り酪農歴のない私にも明日への希望が持てました。

酪農一年生の私にとって以上述べてきた事が私の酪農歴の1ページと成ったと考えています。

酪農一年生の私にとって以上述べてきた事が私の酪農歴の1ページと成ったと考えています。酪農一年生の私にとって以上述べてきた事が私の酪農歴の1ページと成ったと考えています。

卒業生からの便り

酪農一年生

第十四期卒業生 豊岡 秀雄

(岡山県勝田郡勝央町)

昭和五五年三月、本校卒業後直ちに自宅の家業の酪農を中心とした複合経営に取り組み早一年、学生生活から一転して夢と希望を胸に将来の計画を作り経営の合理化、生活基盤の確立を柱に両親と共に経営し、卒業後半年で酪農経営全般を私が後継者としてゆずり受け経営しています。酪農歴のない私にとって今日の様な農業情熱又は異常気象の影響で自給飼料の減収を酪農全般を引受けた私にとっては最初の壁に当面し経営の見通しにさえ不安を覚えました。しかし自分の手で経営を持続向上させていかなければならない責務のある私にとって本校での経験と知識又地域社会から得る情報を自分の手で経営に取り入れる機会が多く有り酪農歴のない私にも明日への希望が持てました。

# 岡山県ブラジル農業実習に参加して

第十五期卒業生 石原保博  
(岡山県勝田郡勝央町)

酪農一年生を終業しようとしてい  
る私ですが、今は将来の計画に確実  
に歩める様に研究、努力、反省を日  
常生活の中に解け入れ、野草の様に  
強い根を築き、荒々しい現代社会の  
波にのみ込まれない様に努力し地域  
ををし、一人前の酪農経営者と誇れる  
様にしたいと考えています。

私と古好君は去る五四年十二月よ  
の滝、イグアスの滝がありこの滝の  
り半年間、県によるブラジル研修へ  
数は三〇〇以上といわれています。  
参加しました。

県下で果樹、園芸、肥育に従事して  
いる人達と私たち5人は、初めての  
行事ともあって、全員が期待と不安  
が入りまじったまま、ブラジルへ達  
ちました。この研修の目的は世界の  
農業に広く目を向け国際的な感覚  
をみにつけることと日本人移民の開  
拓者だましいを学びたくましい後継  
者を育成することにあります。

ブラジルは、日本の二三倍の広大な  
土地にもかかわらず人口は日本とほ  
ぼ同じという土地にめぐまれた国で  
すが、耕地として利用されている面  
積はわずかでまだまだ開拓されてい  
ない土地があります。このことから  
もこれからの国であると思います。  
又ブラジルといえばコーヒーとリオ  
のカーニバルが有名ですが、世界一



サンパウロ遠景

の滝、イグアスの滝がありこの滝の  
うな気がします。  
ブラジルの気候は熱帯から亜熱帯  
にあり、日本のような四季はなく雨  
期と乾期にわけられ、ちょうど日本  
の夏と冬のような気候です。  
雨期には一日に  
数回亜熱帯特有  
のスコールがあ  
り作業をしてい  
た私たちが何度  
かびっくりさせ  
ました。日中は  
大変日ざしが強  
く気温もあがり  
ますが、湿度が  
低いので日本の  
ようにむし暑く  
なくすごしやす  
い気候ではあり  
ました。  
私たちが直接

お世話になった  
のは、サンパウ  
ロ州のモンティ  
カステロという  
小さな町にある  
大西益恵さんの  
お宅でした。大  
西さんは、養鶏、  
コーヒー、酪農、  
と更にとりなり  
の典型的な、  
農場をもつブラジ  
ルの中の酪農をや  
っている家に住み込み実習を行いま  
した。一日の日程は朝六時半から五  
時まで作業で、そのあい間にコーヒ  
ータイムが午前七時と二時、昼食が  
一一時ごろで五時にはすべての作業  
を終了し夕食をして家の人たちとゲ  
ームをしたり、テレビを見たり、時  
には町の祭りに遊びに行ったりの毎  
日でした。初めのうちは、家の人た  
ちや仕事の時にいっしょになる原地  
の人と言葉が通じず苦労しましたが、  
そのうちに言葉ではないかかです  
じあえるようになりとてもうれしく  
思いました。  
また、日  
本の裏側だけにいろいろと日本と反



大型機械による農作業



地平線のかなたまで続くコーヒー園

対のことがありました。まず、ブラジルは海に近いほど標高が高く内陸部に行くほど低く海べりにあるサンパウロの都市の汚水が私たちの住んでいた田舎に流れてくるなど日本にいたなら考えもつかないことです。

また、日本で好まれない黒猫もブラジルでは好まれて飼われています。そして農業も日本の集約的農業に対し粗放的な農業であるなどです。

酪農についてはほとんどが日本の十年前ぐらいで乳価も円にして五十円余りで乳の余る乾期には乳価をひき下げる季節別乳価などがありどこ

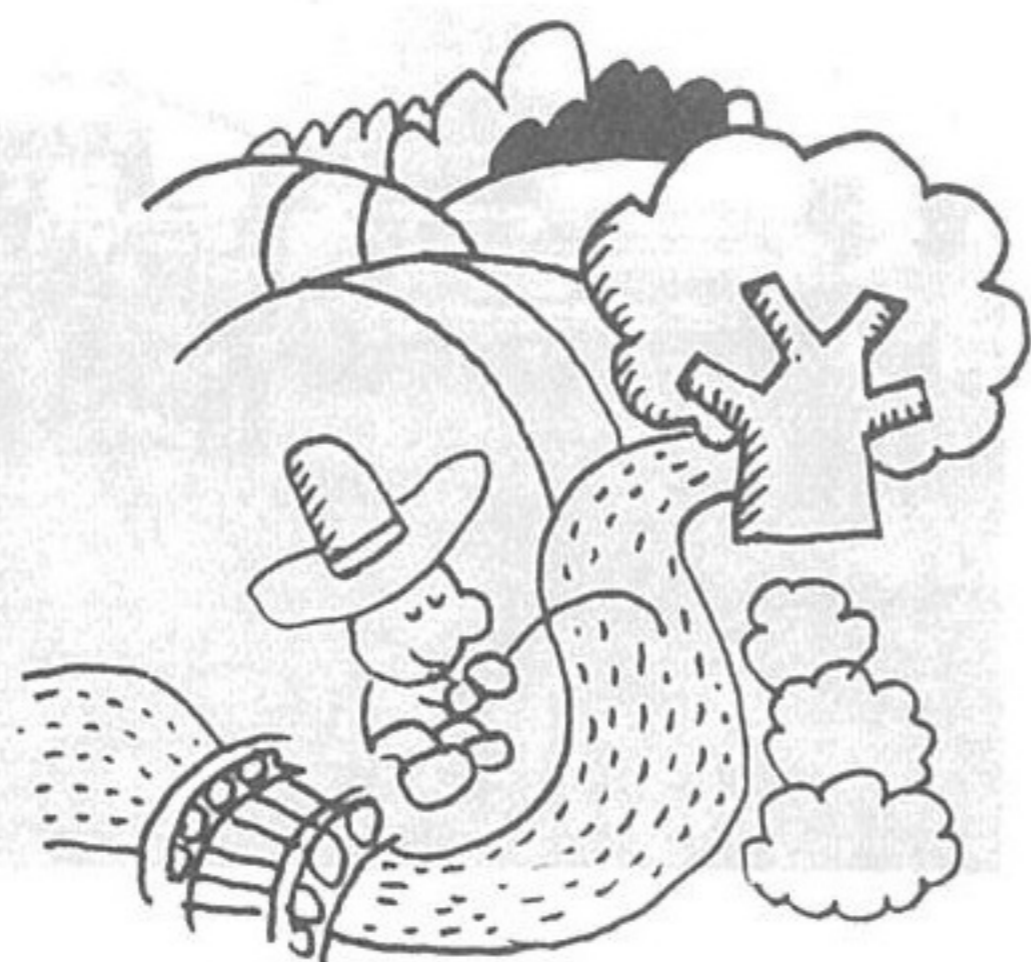
農家もきびしいと思いましたが、ここで一つ付け加えておきたいことは、ブラジルにも先進的な技術を取り入れてアメリカにひけをとらない農場もあることです。

最後にこの研修で見たり聞いたり体験して学んだことは、いづれ自分の経営に役く立てたいと思います。そして若干一八才一九才にして私たちがこの研修に参加し事故もなくおえられたことは関係者の皆様方のおかげです。

どうもありがとうございました。



イグアスの滝





# 酪大日誌から

○四月四日 例年より一日早く、第十六期生二十五名(うち女子五名)が来賓の方々の祝福を受け、酪農を志して入学した。

○四月十日 学生及び職員相互の睦を図るため、校内研修生が交替するたびに開催することとして恒例の校内球技大会を開催。新入生もこれで学校、職員に染み、

○七月十六日

○七月十六日

○七月十六日

○七月十六日

○七月十六日



校内球技大会

家の訪問をするとともに、学生募集のため中国四国各県及び兵庫県の関係機関、高等学校を巡回訪問した。

○八月四日

○八月四日

○九月二十七日

○九月二十七日

○十月二日

○十月二日

○十月三日

○十月二十三日

○十月二十三日

○十月二十三日

○十月二十三日

○十月二十三日

○十月二十三日

○十月二十三日

○十月二十三日

○十月二十三日

○十月二十三日

○十月二十三日

○十月二十三日

○十月二十三日



サイレージ調整

○二月十日

○二月十日

○二月二十三日

○二月二十三日

○二月二十三日

○二月二十三日

(教務課 有富記)

# 人の動き

昭和五五年度、岡山県定期人事異動が四月一日に発令され、次のとおり諸先生の移動がありました。

## ○退職者

(副校長) 竹内 秀雄  
 (主任助手) 常守 実

## ○転出者

(校長) 三宅 茂

岡山県住宅供給公社理事  
 長代行  
 (昭和五五年十二月二十五日付)

## (第一牧場長)

光 畑 稔  
 岡山県高梁家畜保健衛生所主任

## (第二牧場長)

森 次 興 士  
 岡山県真庭地方振興局農林事業部

## (総務部主事)

堀 義 和  
 岡山県工業技術センター主事

## (第一牧場技師)

大 内 紀 章  
 岡山県井笠家畜保健衛生所技師

## (第二牧場技師)

早 瀬 文 繁  
 岡山県酪農試験場技師

## ○現職員名簿

(昭和五十六年一月現在)

校長 宮本 宣明

副校長 服部 剛  
 次長 天野 毅  
 (総務部)

部長 河野 俊治  
 主任 柴田 光政  
 主任 池田 勝  
 主任 津田 清子  
 主事 池田 富幸  
 主事 戸田 道子  
 主事 樋口 知子  
 主事 樋口 知子

(教育部)  
 部長 植木 富士男  
 課長 有富 敬典  
 技師 赤田 高則

第一牧場  
 技師 上原 逸史  
 技師 黒瀬 浩平  
 技師 樋口 照夫

第二牧場  
 技師 常守 実  
 技師 小福田 満郎  
 技師 本庄 司郎

技師 多田 幸四郎  
 技師 三牧 孝徳  
 技師 高橋 俊彦  
 技師 磯田 博

岡山県酪農試験場技師

# 酪農大学校旧職員名簿

出身県別卒業生集計表

S 56年 3月末現在

| 設立区分<br>卒業年次<br>期 別 | 岡山県立酪農大学校 |    |    |    | 計  | 財 団 法 人 中 国 四 国 酪 農 大 学 校 |           |           |           |           |           |           |    |           |           |           |           |           |           |           | 計           | 卒業生<br>合 計  |
|---------------------|-----------|----|----|----|----|---------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------|-------------|
|                     | 39        | 40 | 41 | 42 |    | 42                        | 43        | 44        | 45        | 46        | 47        | 48        | 49 | 50        | 51        | 52        | 53        | 54        | 55        | 56        |             |             |
|                     | 1         | 2  | 3  | 4  |    | 1                         | 2         | 3         | 1         | 5         | 6         | 7         | 8  | 9         | 10        | 11        | 12        | 13        | 14        | 15        |             |             |
| 鳥 取                 | 1         |    | 2  |    | 3  |                           | 2<br>(1)  | 3<br>(1)  | 1<br>(1)  | 2         |           |           |    | 1         |           | 2         | 1         | 2<br>(1)  | 1         | 16<br>(4) | 19<br>(4)   |             |
| 島 根                 |           |    | 1  |    | 1  | 1                         | 1<br>(1)  | 3<br>(1)  | 6<br>(1)  | 5         | 3<br>(1)  | 2         | 1  | 1         | 3         | 5<br>(1)  | 3<br>(1)  | 1         | 2         | 3<br>(2)  | 40<br>(7)   | 41<br>(7)   |
| 岡 山                 | 18        | 16 | 19 | 21 | 74 | 11<br>(2)                 | 16<br>(1) | 18        | 22<br>(3) | 17<br>(4) | 22<br>(2) | 18<br>(1) | 15 | 14<br>(2) | 17<br>(2) | 15<br>(1) | 15        | 10<br>(2) | 14<br>(1) | 21<br>(2) | 245<br>(23) | 319<br>(23) |
| 広 島                 |           | 1  |    |    | 1  | 2                         | 1         | 1         | 2         | 4         | 3<br>(1)  | 1         | 6  | 4         | 2<br>(1)  | 1<br>(1)  |           | 3<br>(1)  | 5         | 1         | 36<br>(4)   | 37<br>(4)   |
| 山 口                 |           |    |    |    |    |                           | 1         | 1         | 2         |           | 5         | 2         | 3  |           | 1         | 3         |           |           | 1         | 2<br>(1)  | 21<br>(1)   | 21<br>(1)   |
| 徳 島                 |           |    |    |    |    |                           | 1         |           | 1         |           | 1         | 1         | 1  |           |           | 1         |           | 1<br>(1)  |           |           | 8<br>(1)    | 8<br>(1)    |
| 香 川                 |           |    |    |    |    |                           | 2         | 1         | 4         | 4         | 3         | 2<br>(1)  | 3  | 1         | 1         |           | 3         | 1         | 1         | 2         | 28<br>(1)   | 28<br>(1)   |
| 愛 媛                 |           |    |    |    |    |                           | 2         | 4<br>(1)  | 1         | 2         | 2         |           | 2  | 4<br>(1)  |           | 1         | 5         | 4         |           |           | 27<br>(2)   | 27<br>(2)   |
| 高 知                 |           |    |    |    |    |                           | 1         | 2         | 2         | 2         | 1         |           | 1  | 1         | 2         |           | 1         | 2         | 5         | 1         | 21          | 21          |
| 兵 庫                 |           |    |    |    |    |                           | 2         | 3         | 3         | 2         | 3         | 1         | 2  | 3         |           | 3         | 3         | 4         | 1         | 4<br>(1)  | 34<br>(1)   | 34<br>(1)   |
| 構 成 県 外             | 1         |    | 3  | 1  | 5  | 1                         |           |           |           |           |           |           |    |           |           |           | 1         |           | 1         | 3<br>(1)  | 6<br>(1)    | 11<br>(1)   |
| 計                   | 20        | 17 | 25 | 22 | 84 | 15<br>(2)                 | 29<br>(2) | 36<br>(3) | 44<br>(5) | 38<br>(4) | 43<br>(4) | 27<br>(2) | 34 | 30<br>(3) | 26<br>(3) | 31<br>(3) | 32<br>(1) | 27<br>(4) | 32<br>(2) | 38<br>(7) | 482<br>(45) | 566<br>(45) |

注： ( )内は女子で内数とする。

卒 業 者 名 簿

編 集 後 記

。卒業生の皆さん、お元気で活躍のことと思います。

今回の学園便りは、昭和三十六年に岡山県立酪農高等学校が設立されて以来二十年目を迎えるにあたり、当校設立以来の卒業生及び職員名簿を掲載しました。

。この名簿を基に、できるだけ早く酪農大学校同窓会を結成したいと考えておりますので、住所等の異動があった方、あるいは同期生で近況をご存じの方はお知らせください。

